

令和 6 年 2 月 27 日

山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進プロジェクト
実施報告書

報告者名	石垣和恵	
団体名および構成員 ※団体で活動を行った場合のみ記載 (欄が足りない場合は行を追加して記入してください。)	団体名	地域教育文化学部 石垣研究室
	氏名	所属
	石垣和恵	地域教育文化学部児童教育コース 准教授
	池田彩乃	地域教育文化学部児童教育コース 准教授
	有海順子	障がい学生支援センター 准教授
活動名	災害時要配慮者(児)のニーズを踏まえた防災教育の構築	
連携して活動を行ったプラットフォーム加盟機関名	山形県教育委員会(特別支援教育課)	
活動報告	<p>《活動内容》</p> <p>本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター:有海順子) <p>・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成</p> <p>研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。</p> <p>《実施した効果》</p> <p>研修会は各回10-14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門的な研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。</p> <p>これらの研修を踏まえ、障がい理解と防災の基礎理解を図るクイズ形式参加型掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示したところ好評価が得られた。</p>	

(裏面あり)

実施スケジュール	≪スケジュール≫ 1. 研修会 第1回 10月30日(月)14:50-17:50 避難所運営ゲーム体験 参加者10名(学生8 教員2) 第2回 11月13日(月)16:20-17:50 視覚障がい者のニーズを聴く 参加者13名(一般3 学生8 教員2) 第3回 11月24日(金)14:40-16:10 運動障がい者のニーズを聴く 参加者8名(一般1名 学生6名 教員2名) 第4回 12月4日(月)16:20-17:50 聴覚障がい者のニーズを聴く 参加者14名(一般4名 学生7名 教員3名) 2. インクルーシブ防災啓発用掲示物作成と掲示 12月-2月						
支援金の用途報告	合計 100,000 円						
	(内訳)	(品名・用途 他)	(数)	×	(単価)	=	(金額)
	避難所運営ゲーム	要配慮者バージョン	1	×	18100	=	18,100
	座談会運営	講師謝金	3	×	5,568	=	16,704
	座談会運営	手話通訳謝金・送料	1	×	5,120	=	5,120
	研修資料(書籍)		1	×	46,722	=	46,722
	研修資料(DVD)	「逃げ遅れる人々」「星に語りて」+振込手数料	1	×	8,294	=	8,294
	ラミネートフィルム	A3判	1	×	3,952	=	3,952
	蛍光カラーシール他	蛍光カラーシール、カードリング、プッシュピン	7	×	110	=	770
文房具	ポストイット、クリップ	1	×	338	=	338	
次年度の計画について	令和6年度は同テーマでより多くの当事者の意見を伺い、一層の理解啓発を図るとともに、小学校、中学校、特別支援学校向けの防災啓発掲示物改訂版を検討する。						
本事業へのご意見・要望							
活動に関するHPや情報がございましたら、URLの添付をお願いいたします。							

1 この報告書はA4版表裏1枚以内で作成の上、メールに添付して提出してください。

問い合わせ先：山形大学総務部総務課社会共創推進事務室
 TEL：023-628-4615 MAIL：yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp